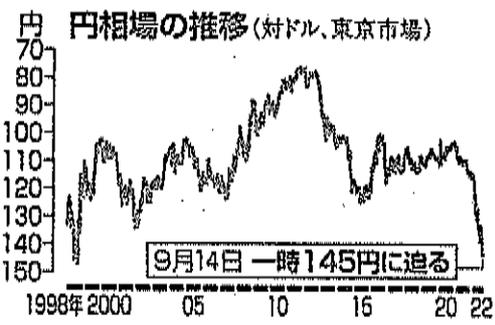


円急落 145円迫る

為替介入巡り相場乱高下

14日の東京外国為替市場で円が急落し、一時1ドル＝144円95銭まで下落、心理的な節目の1ドル＝145円に迫った。米消費者物価指数の上昇率が市場予想を上回り、米国がインフレ抑制のため利上げを継続するとの観測が拡大。米長期金利が急上昇し、運用に有利なドルに市場の資金が集まった。日銀が市場参加者にドル円相場の水準を尋ねる「レートチェック（水準照会）」を実施したことが午後には判明。為替介入の実施に備えた動きとされ、円を買い戻す動きも出て相場は乱高下した。【7面に関連記事】

鈴木俊一財務相は14日、



記者団の取材に対し、「あらゆる手段を排除せずに対応していかなければいけない」と述べ、為替介入を含めて検討すると強調した。日銀がレートチェックを実施したことに關しては「おえてコメントしない」と言及を避けた。政府高官や日

銀の黒田東彦総裁によるけん制発言だけでは円安が止まらず、政府、日銀が一段と警戒感を強めた形だ。実際に介入に踏み切るには相手方の米国の理解が欠かせず、ハードルは高い。過去にはレートチェックをしても介入を実施しなかったケースもあり、市場では「介入も辞さないという強い姿勢を金融市場に示す狙いがあるのだろう」（市場関係者）との声が聞かれた。

東京市場の午後5時現在は前日比1円05銭円安ドル高の1ドル＝143円30～33銭。ユーロは1円22銭円高ユーロ安の1ユーロ＝143円11～15銭。